

THE BELT (ザ・ベルト)

リミテッドシリーズ・小説5部作・グラフィックノベル・進行中の話題喚起プロジェクト

2029年8月、NASAの探査機「サイキ」が、経済の常識を超える価値を持つとされる直径280キロメートルの金属小惑星に到達する。『THE BELT』は、この実在し、既にカウントダウンが始まっている公式ミッションを起点に描かれるドラマである——空想ではなく、現実に紐づいた物語だ。

なぜ彼なのか

実績。40年にわたる制作実績。6本の大型長編映画で撮影監督を務め、さらに数十本でVFXスーパーバイザーを担当（『Walking with Dinosaurs』『Mulholland Drive』など）——すべてIMDbで確認可能。この実績があったからこそ、大手スタジオはビリップスをCTO兼VFXスーパーバイザーとして起用し、9桁規模の予算を持つ製作に踏み切った。

信頼性。彼は宇宙に手を伸ばしただけの映画作家ではない。ゲーム業界最大手のAI企業でCTOを務め、ロッキード・マーティン（SwarmForce）、ボーイング、そしてNASA（Virtual Crew Member、Gateway系プログラム）向けに自律システムおよび空間シミュレーションプログラムを開発してきた。物語の核となる技術そのものを、彼は自らの手で先駆けて構築している。

模倣不可能性。『THE BELT』の中心にある「金属小惑星」というコンセプトは、2011年に米脚本家組合（WGAW No. 731443）に登録されており、その原型となる着想は2009年まで遡る——NASAが2017年1月にサイキミッションを選定するより何年も前のことだ。2022年には小説『Psyche World』として出版されている。彼はニュースを追いかけて書いたのではない。ミッションの方が、彼が既に指し示していた場所に到達したのだ。

なぜ今なのか

市場はAI生成による、見分けのつかないピッチで溢れている。今、希少な資産となるのは、AIには決して生み出せないもの——検証可能な実績と、何十年も前からタイムスタンプ付きで権利を主張してきたクリエイターの存在だ。『THE BELT』はプロンプトから複製できない。その背後にある25年間は、複製できないからだ。そして実際のミッションが2029年に到達することで、このプロパティの重要性には公的な期限が刻まれている。

現在保有する制作資産

脚本／シリーズ・バイブル	シリーズバイブルとして機能する115ページの長編脚本。カバレッジ評価：PreScene 86（「強力／業界標準」、World Building 10/10）、Greenlight 9/10。
出版された小説	Amazon、Barnes & Noble、AppleにてSF小説5作品を配信中。グラフィックノベル『Spoils of War』も近日発売予定。

シリーズ・デッキ	3シーズン構成のリミテッドシリーズ概要。プレゼンテーション用に準備済み。
認識プロパティ	PsycheSector.com – 2029年の到着に向けてオーディエンスを拡大する、ミッションのスケジュールに連動したライブ・キャンペーン。

Scott Billups · Pixelmonger Studios · dev@pixelmonger.com · PsycheSector.com